



「延島っ子」

発行者 延島小学校長 田村芳広

電話 49-0004 FAX 49-2761

平成26年度が始まって一ヵ月

4月が始まって一ヵ月が過ぎました。ご家庭での子どもたちの様子はどのようなでしょうか。新年度が始まったの疲れはないでしょうか。特に、新しい生活をはじめた1年生はどのようなでしょうか。連休では少しリラックスして、休みをとることもいいかもしれません。学校では、この一ヵ月の振り返りを行うことを職員に話しました。学級の一日のルール作りはどうか。朝の会の流れは、授業の始めと終わりのあいさつは、授業中、発言するときはどうするか、先生の話をお聴くときはどうするか。子どもたちも授業中と休み時間、給食の時間、清掃の時間等きりかえて学校生活を送れているか。そして、子どもたちがここまでで何を身につけたかを確認する。成長を確認する。これらを振り返った上で、5月につなげるよう話をしました。新年度になって、ご家庭でもできるようになったことを認め、ほめることを繰り返してください。よろしくお願いします。



読み聞かせ

先週の17日(木)に2年生の読み聞かせにいきました。「くまのこうちょうせんせい」を読みました。2年生はとてもしっかりお話を聞くことができ、大変感心しました。

以下、本の内容です。

くまのこうちょうせんせいは毎朝大きな声であいさつをします。うさぎさんもきつねさんも大きな声であいさつができますが、ひつじさんは小さな声しか出ません。こうちょうせんせいは優しくいつか大きな声で言えるようになるとひつじさんを励まします。ある日、こうちょうせんせいが入院してしまいました。ひつじさんたちのやさしい思いのある手紙を見たこうちょうせんせいは病院の先生に相談し、病院から学校に通ったのです。食べることもあまりできなくなっていたため、こうちょうせんせいはやせてしまい、今までのように大きな声で「おはよう」を言うことができませんでした。ひつじさんが山のとっぺんで「おはよう」の練習をしようとする、こうちょうせんせいが後からきて、入院してわかったことをひつじさんに言いました。そのすぐ後、こうちょうせんせいは倒れ、ひつじさんが必死になって大声で助けを呼びました。病院のベッドで、ひつじさんはこうちょうせんせいに大きな声が出せたことをうれしそうに報告しました。



この話は本当のことを元にした話だそうです。神奈川の〇〇〇〇校長先生は残り3ヵ月という病気になって大きな声を出そうと思っても出せないときがあるんだということをはじめてわかったというのです。

子どもは明るく元気が一番と、大人は思い込んでしまいます。でも、本当は、子どもは小さくて弱い者なのです。子どもの『いたみ』を分かちあうのが、大人の役目だと思います。

思い込みではなく、子どもたちをよく観て、子どもたちのできないことをしっかり受け止め、少しずつ少しずつ育てていかなければならないのです。目の前にいた2年生もそれぞれ、できることとできないことがあり、誰ひとり同じ子はいません。一人ひとりをよく把握することが大切なのだと子どもたちの顔を見ながら思いました。



給食の時間

17日(木)から、1年生も上級生と同じ時間で給食の「いただきます」をするようになりました。1年生の給食指導も順調に進んでいます。ちょっと苦手な食材が出てきても、みんなと食べるおいしさの流れで、ちょいちょいと食べてしまいます。これが給食の効果です。そして、担任の言葉かけ、励ましが大変効果的です。心づくり、頭づくり、体づくりのエネルギー源として食事は大切です。読んで字の如し、食事という字を分解すると、『人のためによいこと』と書くではありませんか。しっかり食べて、「明るく元気な子 自ら勉強する子 仲良く助け合う子」をめざします。

給食の時間を考えます。

給食にもルールがあります。当番の児童、当番以外の児童、放送の係の児童、待つ児童、それぞれにやるべきことがあります。当番じゃないからといって勝手にしている時間ではありません。延島小の給食は誰もが自分のやるべきことをしっかり守って準備が進みます。

食事中にもルールがあります。はじめの7分はおしゃべりせずに静かに食べます。音楽が合図となっています。

片付けも音楽が合図となり動きます。その後あいさつ。きちんと姿勢良く待っている学年は早めに解散、自由になることができます。このような流れがしっかりできている延島小です。それでも、毎日、少しずつ担当の先生がもっとよい給食の時間をめざして指導しています。本当に給食って奥が深い時間です。

ありがとうございます

4月17日に安全協会の〇〇さんが『かかし』をもってきてくださいました。田植えが終わり、稲が伸びてきたら、田んぼに立てたいと思います。

